NEWS RELEASE

Yakult

２０２４年４月１５日

ヘルシーエイジング社会の実現に向けた長期縦断疫学研究「東浦研究」に参画
～乳酸菌摂取が脳やからだの健康に果たす役割を明らかにする共同研究を開始～

株式会社ヤクルト本社（社長　成田 裕、以下「ヤクルト」）は、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター※（理事長　荒井 秀典、以下「国立長寿医療研究センター」）が実施する「東浦研究」に参画し、乳酸菌摂取が高齢者の脳やからだの健康に果たす役割を解明することを目的とした共同研究を新たに開始しました。

「東浦研究」は、２０２３年度に開始された新しい長期縦断疫学研究です。当研究では、愛知県知多郡東浦町在住の６５歳以上の方（要支援・要介護認定を受けていない者）を対象に継続的に調査が実施され、さまざまな角度からフレイル（加齢に伴う心身の機能低下）の進行・改善に関与する要因の解明が進められます。

「東浦研究」には、当社を含めて合計９つの研究機関、学術機関および企業が参画しています。これら参画団体と国立長寿医療研究センターおよびコホート研究対象地域の自治体である東浦町との合同により、東浦イノベーションコンソーシアム（Higashiura Innovation Consortium for Healthy Ageing Society：HICAS）が結成されました。HICAS は「東浦研究」の運営業務を担うほか、ヘルシーエイジング社会に向けた新たな価値を共創するプラットフォームとして、さまざまな取り組みを推進していきます。「東浦研究」に参画する研究機関、学術機関および企業が連携して研究開発から普及・実装までのプロセスを共有することにより、エビデンスとイノベーションの創出を加速させ、我が国の学術・産業の発展や健康福祉政策の推進に寄与することを使命としています。

当社は「東浦研究」の初回調査の参加者およそ１，３００名を対象に乳酸菌飲料の摂取状況に関する質問調査を行うとともに、腸内細菌叢および認知機能指標の測定を実施します。

得られたデータを国立長寿医療研究センターが管理する運動機能、認知・心理機能、活動／睡眠などの情報と合わせて解析することにより、乳酸菌の摂取が高齢者の認知機能や睡眠に及ぼす影響や、腸内細菌叢と認知機能および睡眠状態との関係性の解明を目指します。

この共同研究は２０２７年度末までの期間を予定しており、その中で得られた情報は予防医学に基づく乳酸菌摂取の生理的意義の解明に役立てられます。そして、その成果をもとに、当社は商品やサービスを通じて健康長寿の実現に貢献していきたいと考えます。

※国立研究開発法人 国立長寿医療研究センターについて

国立長寿医療センターは、６つ目のナショナルセンターとして２００４年に開設され、２０１０年に独立行政法人化、２０１５年に国立研究開発法人化されました。認知症、フレイルなどの老年症候群に対する先進的な医療を我が国で展開するために、老化に関するさまざまな基礎研究、臨床研究、疫学研究をおこなっています。「東浦研究」では、研究代表機関として各機関の調整役を担います。フレイルに関連する身体・精神心理・社会的要因を明らかにするとともに、フレイル予防に向けた具体的な生活習慣（運動・栄養・睡眠・口腔ケア）を提案します。